

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第七小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	校務分掌組織を改編し、各分掌・各担当で協働して学校運営を行ってきた。会議・集会で共通理解を図り、共通行動を行ってきた。組織体としての学校運営がなされた。毎月の学校・学年便り、ホームページ、メール等で学校の情報を伝えている。今年度は電話による緊急連絡を学校メールで連絡するように変更した。ほぼ全家庭が登録し、スムーズに移行できた。また保護者の理解が得られるよう、保護者用シラバスを全家庭に配付することも今年度よりはじめた。	A	多様な業務がある中、各々の先生方が取り組み、良い運営を目指している。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	毎月の安全点検をはじめ、日常点検など危険箇所の修繕を速やかに対応して安全な環境整備を行ってきた。安全主任を中心に火災・地震の避難訓練、不審者対応訓練、引渡訓練、予告なしの緊急地震速報訓練等、児童の安全意識を多方面で育成してきた。保護者の来校回数を減らせるよう、今年度より引渡訓練を10月から6月の土曜参観日に移動した。児童が緊急地震速報で素早く身を守る様子を実際に参観してもらうことができた。	A	災害における対応は、訓練に応じて行っている。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	6年全国学力・学習状況調査のA(知識)問題の正答率では、国語72.8(全国比-0.1、県比+1.2)、算数78.9(全国比+1.3、県比+3.0)という結果を受け、まずは学習規律の確立を土台に、学力の基礎基本の習得に励んできた。「学校の宿題をしていますか。」の問いにも、6年97.8%、5年97.8%、4年94.1%の児童が、「している」、「どちらかといえばしている」と回答しており、習慣化が図られてきている。また、学年ごとに児童の課題をあげ、その解決に向け、漢字テスト全員合格、100マス計算大会、都道府県検定など、工夫を凝らして学力向上に励んできた。	A	多様な指導方法に温度差は感じるものの、概ね内容の理解に努めている。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	6年全国学力・学習状況調査のB(活用)問題の正答率では、国語59.8(全国比+2.0、県比+3.1)、算数49.0(全国比+1.8、県比+2.7)と平均を上回ることができた。学年を単位に指導方法や掲示物を統一し、板書計画とノート指導を各クラスで継続的に行ってきた成果である。また、教科のねらいに迫るための言語活動や体験活動の充実を図ってきた。	B	多様な指導方法に温度差は感じるものの、概ね内容の理解に努めている。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	学校長の進める「七小おあしす運動(挨拶・外遊び・廊下歩行・清掃)」を児童会・代表委員会と連携しながら、その浸透に組織で取り組んできた。特に外遊びに関しては児童に大きく浸透した。また、「七小よい子のやくそく」をもとに、授業規律の確立に努めてきた。児童へのきめ細かな指導に向け、また要配慮児童のニーズに応じた指導に向け、低学年補助教員・スクールサポーター・学習支援員を配置し、指導・支援を行ってきた。学年・クラスで学習ルールの徹底を図ってきた。	B	児童によつての温度差がなくなると、さらに良いと思われる。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	生徒指導主任を中心に、月1回の部会で各学年の情報を共有し、対応策を考え、課題の個・集団には学校として組織で対応してきた。年2回の教育相談研修での報告や朝の職員集会も活用し、共通理解と共通行動を行ってきた。県施策「規律ある態度の育成」の効果検証では、県目標80%に対して全体で平均90.7%を達成することができたが、未達成の項目数が増えたことを受け、学習の基本は規律にあることを確認し、改善を図る努力をしてきた。	B	調査結果はあくまでも目安であり、臨機応変な対応を望んでいる。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	運動環境の整備・授業の工夫等に加え、体育的活動(マラソン・なわとび等)を年間を通して取り組んできた。体育授業の充実のため、体育部・研修主任を中心に毎朝ライン引きを行うなど、体育環境の整備をすすめてきた。今年度より持久走記録会を実施した。朝登校後、運動場を走る児童が増え、意欲化が図られた。また、2月の体育朝会でクラス長縄に取り組み、休み時間に長縄に取り組み児童が多く見られた。運動好きな児童の育成が図られた。	A	休み時間での工夫(ニコニコタイムなど)を行い、外遊びを促している。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	校内研修において今年度も体育に取り組み、運動好きな児童の育成と教員の体育授業力の向上に励んできた。研修主任を中心に、掲示物、体育カード等、児童の意欲を高める資料も作成し、体育における七小スタンダードの確立と浸透に向けて努力してきた。体育部を中心に、体育行事の充実や体力向上に努めてきた。新体力テストの総合評価A～Cの児童の割合は昨年度85.2%から本年度87.3%に向上させ、県目標の80%を大きく超えることができた。	A	今年度は、体力向上研究発表校であったことから、年間を通して技能向上に取り組んでいた。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	毎学期初めと終わりに授業参観・懇談会を、春と秋に学校公開を、年度当初に地域訪問・個人面談を実施し、保護者との連携を図ってきた。保育園・幼稚園、地域の高齢者との交流、博物館、田んぼ、環境・音楽・文化の専門家などの講話等、各学年で地域の教育力を生かした人材活用と豊かな体験活動を充実させた。引き続き、地域の人材確保と活用を行ってきたい。	B	保護者・地域ともに、相互理解が足りない気がする。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	PTAでは、除草作業・落ち葉掃きの環境整備、通学班、週1回の校外パトロール等の防犯・安全活動、資源回収のリサイクル活動等で教育活動を支援し、児童の安全指導・健全育成を推進している。おやじの会の会員数も飛躍的に増え、活動も更に充実してきている。	A	保護者の温度差が非常に大きい。挨拶は教職員・保護者とも率先やる行方心掛けが必要と思われる。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満